

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果と対策

令和元年10月 羽島市立小熊小学校

6年生を対象に4月に行った「全国学力・学習状況調査」の結果と対策をまとめました。この結果をもとに全学年を通して、よい点はさらに伸ばし、課題となる点については改善に努めてまいります。

1 国語の調査結果と今後の指導

(1) 全国平均を上回りました。

(2) 領域ごとの結果

学習指導要領の領域である「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべてにおいて全国平均を上回りました。

しかし、問題ごとにみると、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」「目的に応じて質問する」問題は全国平均を下回りました。また、同音異義語が多い漢字についても全国平均を下回りました。

(3) 今後の指導

- ・「質問の仕方」や「よりより話し合い」「討論会」など、学年の発達段階に応じて、話す順序や意図を意識して、伝えたいことを話すことができるためのポイントを指導し、ペアで交流したり、班で話し合ったりする場を設定します。
- ・回数を決めた漢字ドリルでの練習ではなく、漢字や語句の意味を踏まえて指導をし、テストをするなどの見届けを行います。できていない場合は、個別指導を行います。
- ・教室に辞書を常備し、辞書で意味を調べたり、新出漢字や熟語を用いた短文づくりをしたりし、漢字を適切に使うことができるように指導します。

2 算数の調査結果と今後の指導

(1) 全国平均を上回りました。

(2) 領域ごとの結果

「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域で全国平均を上回りました。

しかし、従来の「活用」に関する問題は全国平均を上回っているものの、正答率はやや低いです。特に、提示してある考え方（説明の仕方）を、他の数値の場合に活用する記述式の問題形式が低いです。

(3) 今後の指導

- ・1時間の授業を「思考を重点にした授業」か「習熟を重点にした授業」かを明確にして、授業過程を工夫して指導します。
- ・問題解決の過程を黒板に視覚的に残し、考え方を別の場面や問題に活用する活動を授業の中で意図的に仕組んでいきます。
- ・自分の考えを深めたり広げたりできるように、目的や視点を明確にした全体交流やペア交流を位置付けます。

3 質問紙 ＊「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた数値で比較

(1) 子どもたち自身のことについて

①全国の数値を上回った設問例

- ・自分には、よいところがあると思いますか。
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。
- ・人が困っているときは、進んで助けていますか。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

②全国の数値を下回った設問例

- ・将来の夢や目標をもっていますか。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

(2) 子どもたちと地域とのかかわりについて

①全国の数値を上回った設問例

- ・今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。

(3) 今後に向けて

本校の児童は、高い価値観と向上心をもって生活していますが、自分によいところがあると自己肯定感をもてていない児童もいます。こうした児童を念頭に置き、子供の自己肯定感を高める指導の充実を図っていきます。そして、努力すれば達成可能な目標を具体的にもたせ、目標を達成させる指導・援助を継続的に行います。

また、地域社会に関心を持ち、誇りをもつことができるよう、コミュニティースクールの活動を一層推進します。